

ALPS 処理水希釈放出設備 現地確認結果 報告書(概要)

確認年月日	令和5年5月1日(月)	確認目的	工事の進捗、施工品質の管理、保守点検の状況	
確認箇所	K4タンクエリア、多核種移送設備建屋			
確認設備	<input checked="" type="checkbox"/> 測定・確認用設備	<input type="checkbox"/> 移送設備	<input type="checkbox"/> 希釈設備	<input type="checkbox"/> その他

確認  
結果

ALPS 処理水希釈放出設備の測定・確認用設備は、規制庁の使用前検査が終了し、供用が開始されている。測定・確認用設備の一部である、循環ポンプの設置、品質管理、保守管理、保守点検の状況について確認した。併せて、ALPS 移送配管に設置されている放射線モニタの設置状況について確認した。

- ・ 循環ポンプは、多核種移送設備建屋に2台設置されていた。ポンプと電動機は、溝形鋼を組み合わせた架台の上に設置されていた。(写真1)
- ・ 多核種移送設備建屋(ALPS処理水移送ポンプエリア、循環ポンプエリア)、K4バルブユニットエリアに、漏えい検知器が設置されていた。(写真2)
- ・ 循環ポンプは、ALPS処理水を均一化し、代表試料をサンプリングするうえで重要な設備であることから、適切な管理の下に設置されているかどうかを確認するため、担当者より施工要領書、品質記録について説明を受けた。
- ・ 技術検討会がとりまとめた要求事項の一つに「設備等のトラブルを未然に防ぐための、有効な保全計画を策定すること。」とあることから、ポンプ等、機械設備の保守管理要領を確認し、保全方式が時間基準保全であることを確認した。
- ・ 測定・確認用設備は供用が開始されていることから、日々行っている巡視点検の状況を確認したところ、循環・攪拌運転を開始した日から終了した日まで、1日1回、巡視点検が行われていた。



(写真1) 循環ポンプの設置状況

(写真2) 多核種移送設備建屋における漏えい検知器の設置状況

【東京電力からの主な聴取内容】

Q：循環ポンプは、耐震Cクラスであることを実施計画に定めているが、静的地震力(0.2G)に対する評価はしているのか。

A：一般産業品として求められている強度を有していることから、耐震Cクラスを満たしているのは明らかであり、評価はしていない。

Q：保全周期の根拠は。

A：メーカー推奨、同型機の使用実績等を根拠としている。同型機がない場合は、材料、設計が同様の別メーカーの機器を参考にしている場合もある。